もっと知りたい 素顔のロシア

第5回　今どきロシアのデジモノ生活

服部倫卓（ロシア NIS 貿易会）

■はじめに

ロシアでも携帯電話の普及は目覚しい。2006年末現在の携帯電話加入者数は，1億4,989万人に及ぶ。

そう聞いて，「あれ？　何だか変だぞ」と思った方もおられるであろう。それもそのはずで，2006年末現在のロシアの総人口は1億4,230万人。なぜ，総人口よりも携帯加入者の方が多いのか？

ケータイに限らず，ロシアのデジタル文化はなかなか個性豊かで，日本人の感覚で見ると驚かされることも多い。そこで今回は，デジモノ事情から見えてくるロシア社会の今についてお伝えしたい。

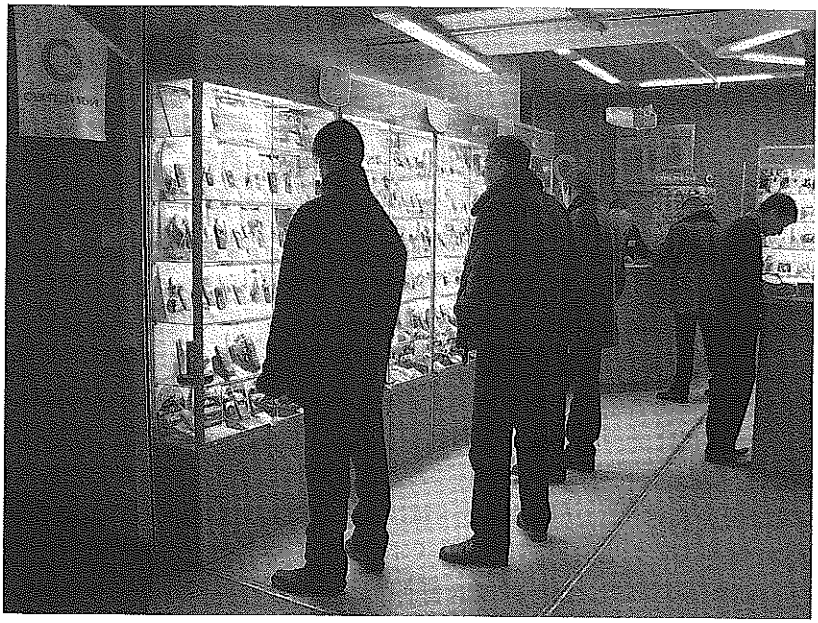
なお，せっかく「テレビロシア語会話」のテキストに書くエッセイなので，主なデジタル用語をロシア語で何と言うかという豆知識を披露しようかとも思ったが，やめることにした。英単語がそのままロシア語に入り込んでいるケースが多く，紹介しても面白くないからである。たとえば，「プレーヤー」という単語は，本来ロシア語では「проигрыватель（プロイーグリヴァチェリ）」と言うのだが，デジモノでは英語風に「плеер（プレーエル）」と表現されることの方が多い。

■通信料よりもケータイ端末にお金を使うロシア人

まず，冒頭で取り上げたミステリーの種明かしを。

ロシアでは日本と異なる「GSM」という方式の携帯電話サービスが主流である。GSM の場合，事業者はユーザー情報を「SIM カード」という小さい IC カードに記録して，そのカードを加入者に販売する。SIM カードは携帯本体から取り外しができるので，加入者が複数のカードを保有し，ひとつの端末でそれらを使い分けることが可能となるのである。そして，事業者は自社の加入者をなるべく多いように見せたいので，SIM カードの度数が切れてずっと放置しているような顧客でも，自社の「加入者」に算入してしまうというわけだ。そ

モスクワの携帯電話ショップ

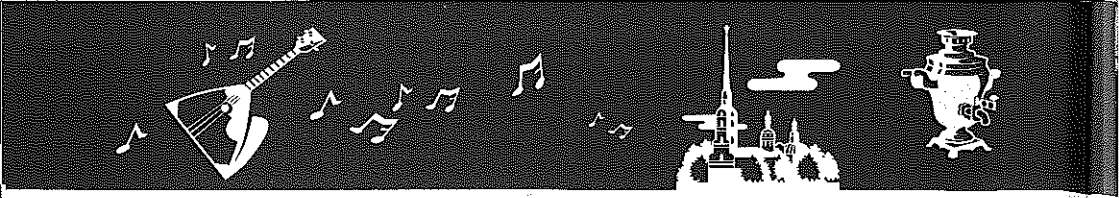


うした利用実態のないカードを除外して数えると，ロシアの実際の携帯電話加入者は1億人程度ではないかと言われている。

日本では携帯事業者が端末に「SIM ロック」をかけ，そのうえで販売報奨金を出し，代理店に端末を安く販売させている。これに対し，SIM カードと端末が分離しているロシアでは，端末の値段がかなり高い。2006 年の端末1台当たりの平均価格は2万5,000円ほどだったから，日本よりも所得水準が低いロシアの国民にとっては，かなりの出費である。最近ではわざわざローンを組んでケータイを買うロシア人も増えているというから，おおごとだ。

その代わり，彼らが支払う通信料金は，非常に小額である。携帯事業者の業績を計る際によく使われるのが「ARPU」，すなわち加入者1人当たり月間平均収入という指標である。今日の日本では ARPU は 7,000 円近いが，ロシア最大手の MTS の場合，2006 年の ARPU はわずか 1,000 円程度だった。ロシアのユーザーは，通話とメールをちょっと利用するだけで，料金の高い追加サービスにはあまり手を出そうとしないのだ。

これを打破すると期待されたのが，我らが i モードである。日本の NTT ド



コモとロシアの MTS は 2004 年 12 月，i モードサービスをロシアで展開するためのライセンス契約に調印した。しかし，やはり壁は厚かったのか，ある情報によれば，i モード加入者は 5,000 人あまりしか集まらなかったという。MTS は i モード事業への追加投資を打ち切ることを決定したようだ。

■横行する海賊版と違法配信

ロシアは，「海賊版」，つまり CD や DVD を違法に複製した商品が氾濫(はんらん)している国として知られている。ロシアの街角では，信じられないような安い値段で，海賊版の CD，DVD が手に入る。こうした不法行為の横行により，欧米の音楽・映画産業は大きな被害をこうむってきた。

ロシアの著作権侵害の問題に拍車をかけてしまったのが，音声圧縮ファイル「MP3」の流行である。音楽をパソコンに取り込んだり，デジタル携帯音楽プレーヤーで持ち出したりする際に使われる，あれである。ロシアでは，CD-R に MP3 形式で大量の楽曲を焼いた商品(むろん著作権料など払っていないだろう)が堂々と市販されている。数百円も出せば，ビートルズの全レパートリーを 1 枚のディスクに収録した MP3 全集が手に入ってしまうのである。だからロシアでは，MP3 の再生に対応したポータブル CD プレーヤーが，一頃よく売れていた。

そんな海賊版大国のロシアで，最近変化が生じているという。著作権料を支払った正規の CD，DVD が売れ始め，そうした商品を取り扱うチェーン店が拡大しているというのだ。その背景として，欧米のエンターテイメント企業が，ロシア限定で廉価版の CD，DVD を出すようになったことがあるようだ。海賊版よりは 2 倍高いが，輸入された正規版と比べれば半分の値段といった価格設定が成功し，徐々に消費者に受け入れられている模様である。

ただ，CD に関して言えば，今後ロシアで順調に正規版の販売が伸びていくとは思えない。先進国ではすでに，音楽のネット配信の普及により，CD の販売が下落に転じている。ロシアでも，国全体では CD の売り上げはまだ伸びているが，モスクワなどではすでにネット配信に侵食されつつある。流行に敏感な若者はデジタル携帯音楽プレーヤーを愛好するようになっており，そのことも CD 離れとネット配信の普及につながっている。

その際に，ネット配信がまともな業者によって提供されればいいのだが，そうすんなりとは行かないのがロシアという国だ。ロシアを拠点とする悪名高いあるサイトでは，アルバム 1 枚分の MP3 が 200〜300 円程度でダウンロードでき，ロシアのみならず，(日本を含む)全世界の好事家(こうずか)の人気を集めている。同

サイトは欧米の音楽業界から目の敵にされており，このサイトを閉鎖することが，ロシアが世界貿易機関（WTO）に加盟する条件の一つに挙げられたほどである(実際ロシア政府は閉鎖を命じたが，2007年6月現在，まだ元気に営業を続けている)。なるほど，最近ロシアでは，「soundkey.ru」「yanga.ru」といった，著作権料をきちんと支払っている音楽配信サイトも登場してきている。しかし，値段も，品揃えも，非合法サイトにはとても太刀打ちできない。

■「コンテンツはタダ」という感覚？

筆者は，携帯電話の通信料収入が伸び悩んでいるという話と，音楽・映像の著作権侵害が横行しているという話は，同根のものであると考えている。つまり，ロシア国民には，「コンテンツはタダ」というような感覚があり，それを入手するのに進んでお金を払おうとする人が少ないということではないかと思うのだ。

実際ロシアでは，デジタル家電の販売が伸びているわりには，デジタルコンテンツ(情報，音楽，映像，ゲームなど)の市場規模は伸び悩んでいる。ロシアの調査機関によれば，2006年にロシアで携帯電話およびインターネットを通じて流通したデジタルコンテンツの総額は，4.8億ドルであったという。一方，日本の当該の数値は，85.3億ドルであった(財団法人デジタルコンテンツ協会が発表した予測値から筆者が算出・換算)。両国は，携帯電話の普及率では大差がないのに，そこで生み出されている付加価値には大きな開きがあるのだ。

もっとも，最近目にしたニュースのなかには，ロシアで次世代DVD「ブルーレイディスク」によるタイトルの第一弾が発売されることになった，というものもあった。ちなみに，記念すべき第一号は，「007 カジノ・ロワイヤル」に決まったそうだ。高価なブルーレイ・プレーヤーを，値札も見ずに買っていくような富裕層がいるのもまた，ロシアの現実である。

過剰なまでに著作権保護機能にこだわったと言われるブルーレイが，ロシアでどのような受け入れられ方をするのか，個人的には注目しているところである。

ロシアNIS貿易会とは？
ロシアNIS貿易会は，日本とロシア・NIS諸国との経済関係を促進するために活動している団体です(NISとは，旧ソ連から独立したウクライナ，中央アジアなどの新興独立国を指します)。このコーナーでは，ロシア地域のスペシャリストである同会のスタッフが持ち回りで，バラエティ豊かなエッセイをお届けいたします(同会につき詳しくは，http://www.rotobo.or.jp)。